

平成29年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の函館市の結果概要

1 調査の内容

(1) 調査の目的

子どもの体力・運動能力等の状況に鑑み、全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

(2) 調査の対象学年

国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象に調査。

- ・小学校第5学年および特別支援学校小学部第5学年の全児童
- ・中学校第2学年および中等教育学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年の全生徒

(3) 調査の内容

① 児童生徒に対する調査

ア 実技に関する調査

測定方法等は新体力テストと同様

[小学校8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、

20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

[中学校8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走（男子1500m、

女子1000m）、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、

ハンドボール投げ

※ 持久走か20mシャトルランのどちらかを選択して実施

イ 質問紙調査 生活習慣、食習慣、運動習慣に関する質問紙調査

② 学校に対する質問紙調査

学校における体育、保健体育の指導および特別活動等に関する質問紙調査

(4) 調査の方法

悉皆調査

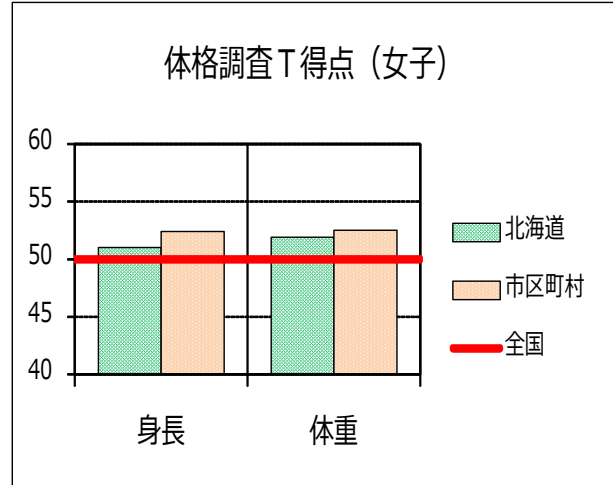
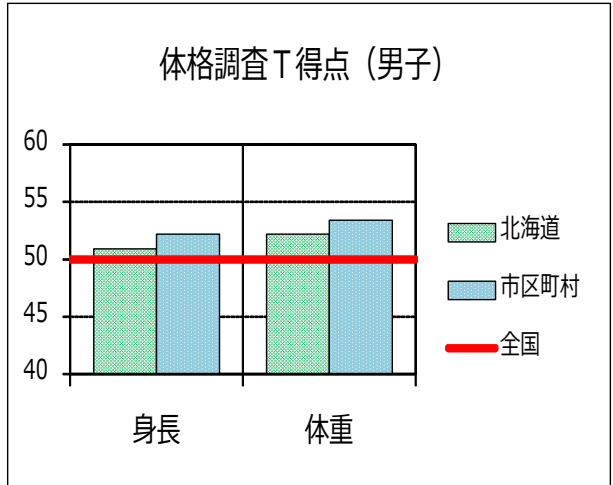
(5) 調査実施期間

平成29年4月から7月末まで

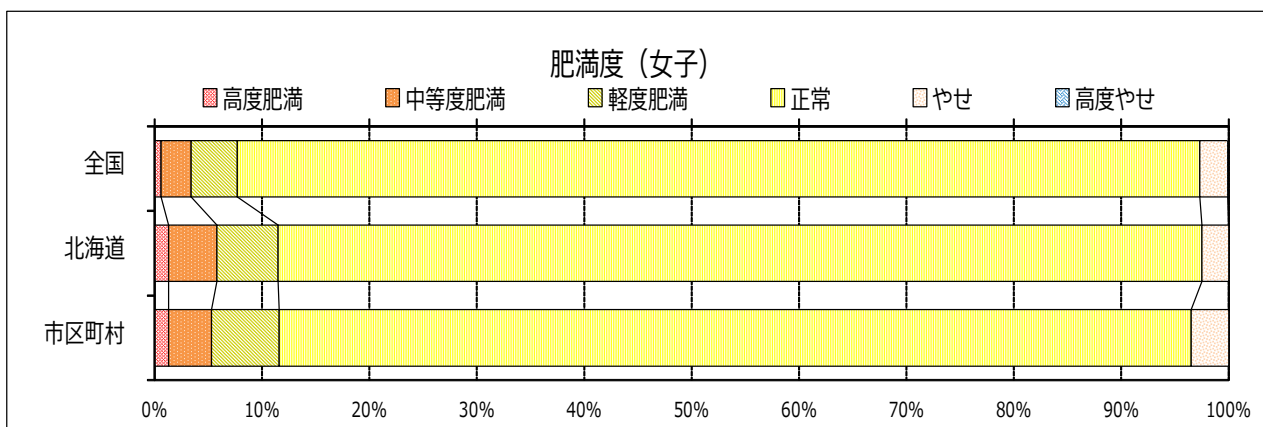
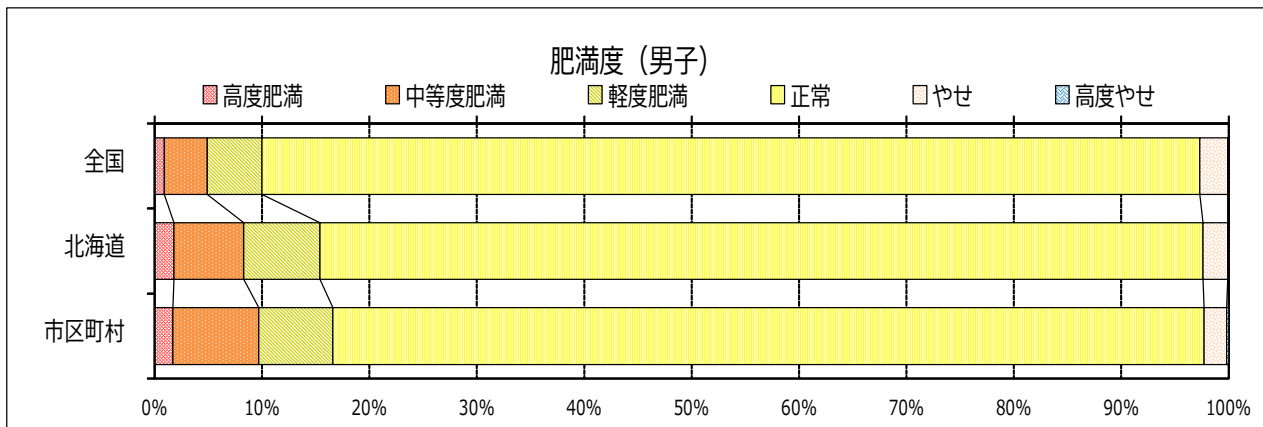
(6) 調査学校数および児童生徒数（公立学校）

	参加小学校数	児童数	参加中学校数	生徒数
全国	19,889	1,050,062	9,941	961,769
北海道	1,043	41,039	623	40,550
函館市	46	1,759	25	1,684

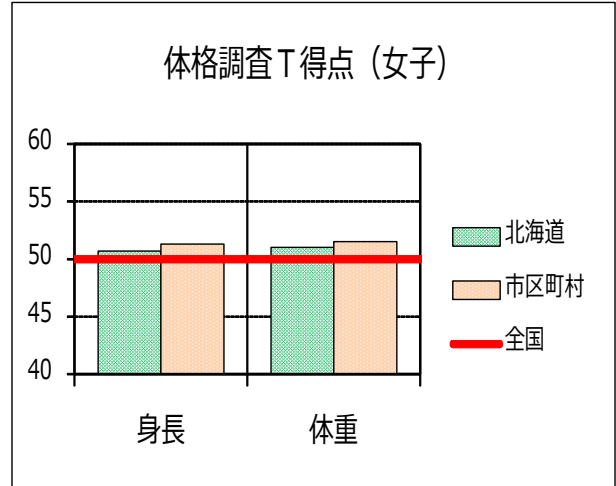
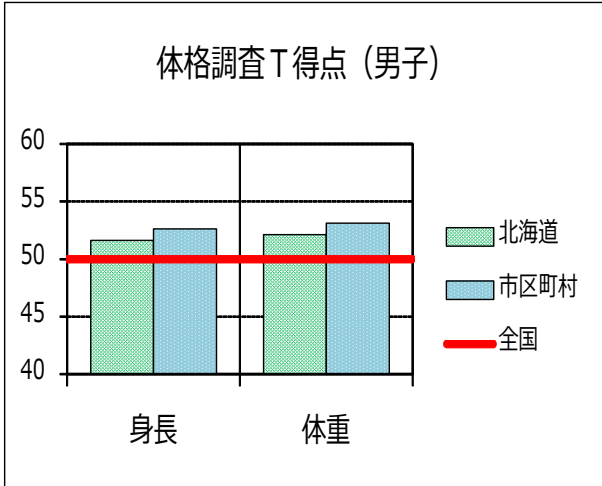
(7) 結果の概要
 ① 体格について
 【小学校】
 〈身長・体重〉



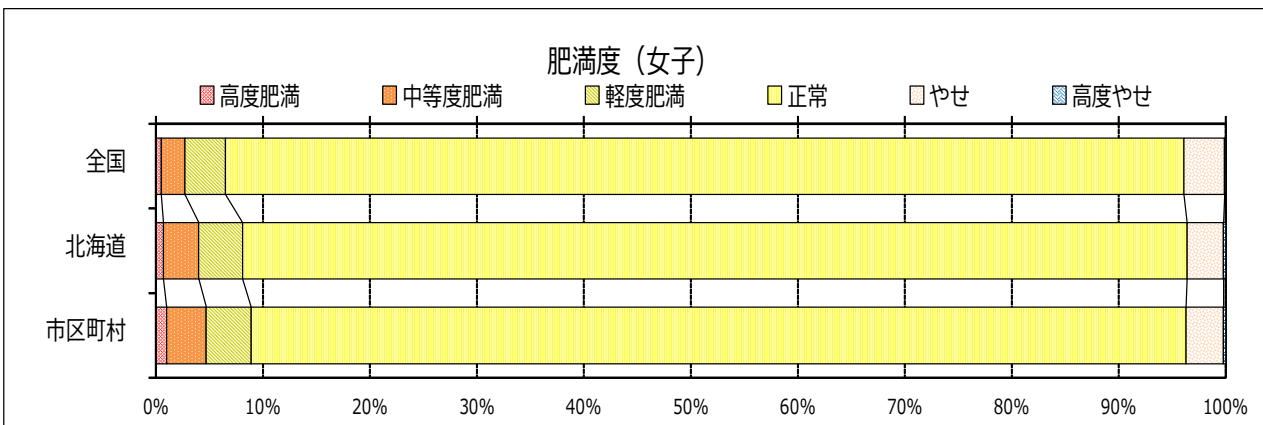
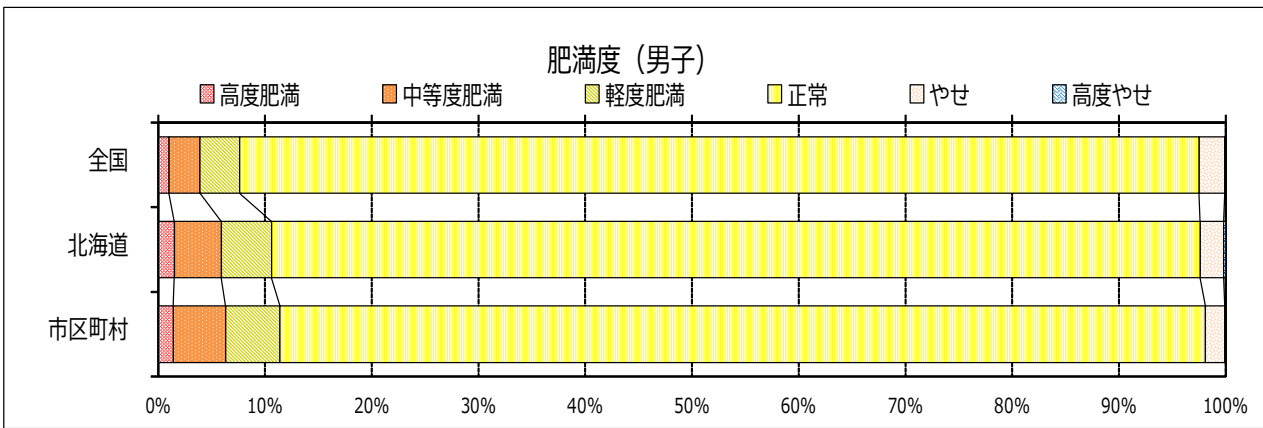
〈肥満度〉



【中学校】
〈身長・体重〉



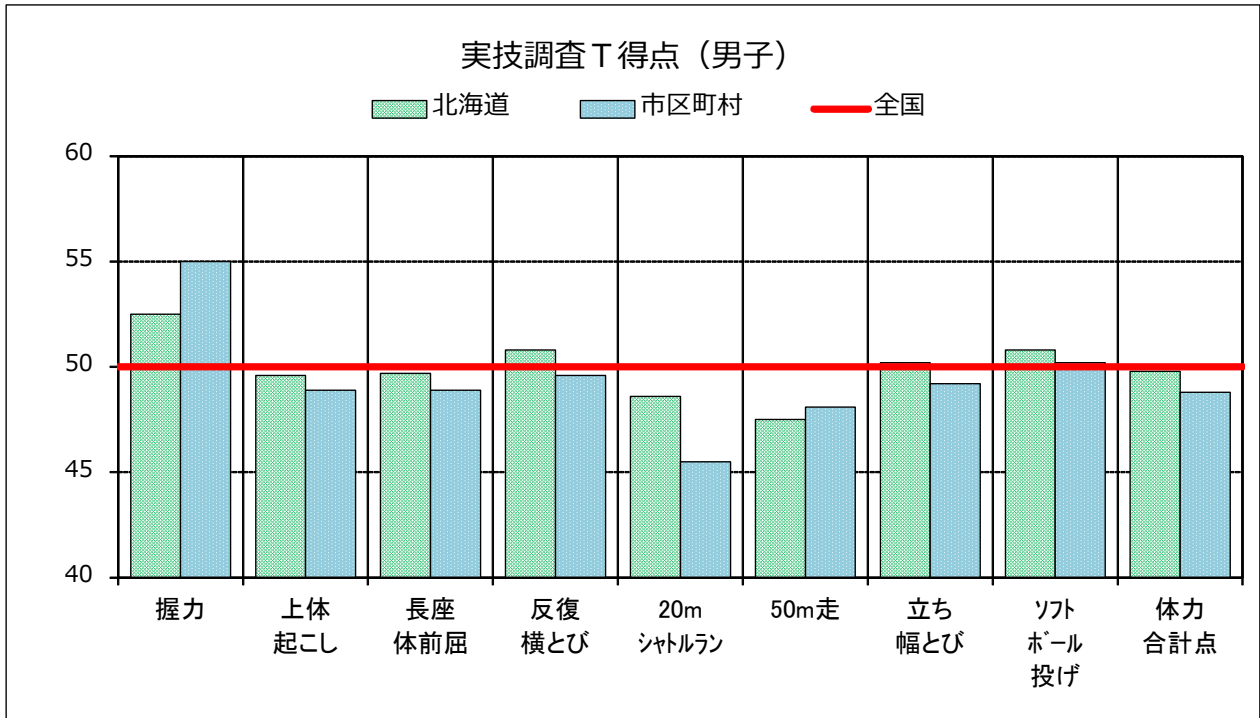
〈肥満度〉



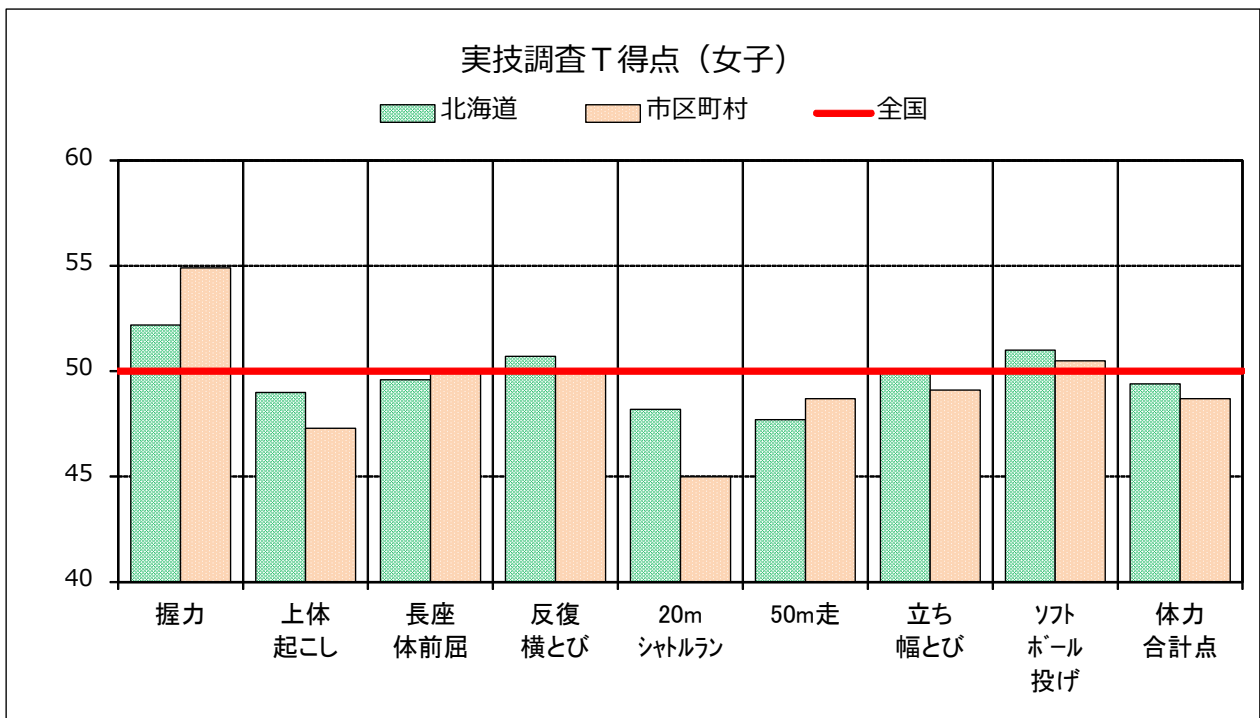
② 実技に関する調査
【体力合計点（T得点）】

	男子	女子
函館市小学校	48.8	48.7
函館市中学校	49.2	45.8

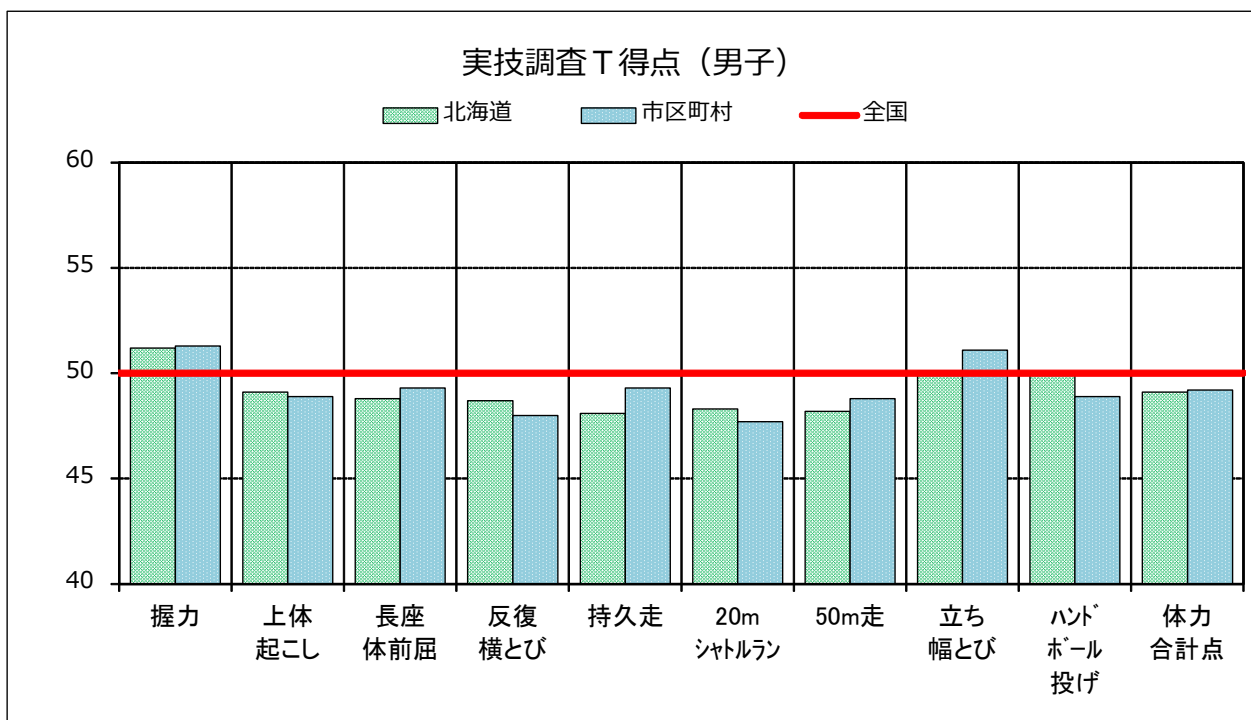
【小学校】
〈男子〉



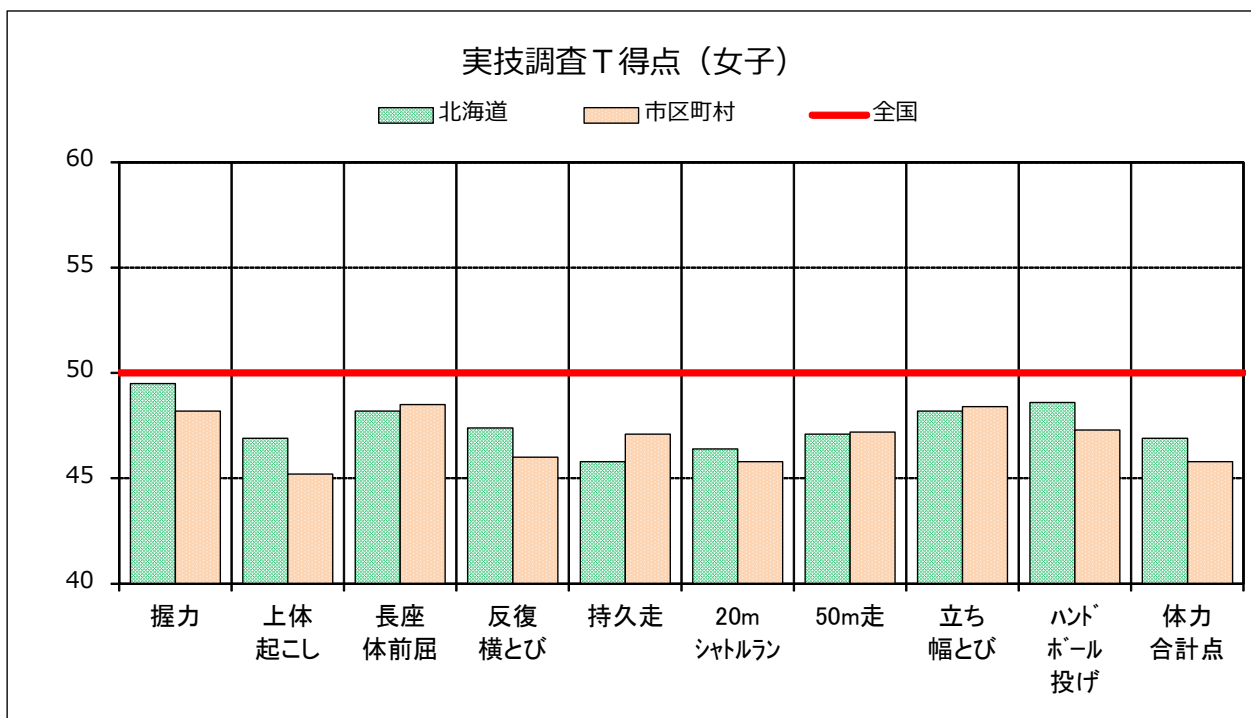
〈女子〉



【中学校】
〈男子〉



〈女子〉



③ 質問紙調査 ※ 全国平均との比較
ア 運動習慣等について

質問項目	小学校 男子	小学校 女子	中学校 男子	中学校 女子
「運動が好き」と回答した割合 (%)	↓ 0.5	↑ 5.0	↑ 3.6	↓ 0.9
1週間の総運動時間 (分)	↓ 3.0	↑ 30.9	↓ 90.2	↓ 185.8
「健康には、運動が大切だ」と回答した割合 (%)	↑ 4.1	↑ 5.9	↑ 4.1	↓ 0.9
運動部に所属している割合 (%)	/		↓ 14.8	↓ 21.1
「朝食を毎日食べる」と回答した割合 (%)	↓ 3.1	↓ 6.3	↓ 4.8	↓ 5.1
「健康には、食事が大切だ」と回答した割合 (%)	↑ 1.9	↑ 1.3	↑ 1.4	↓ 0.8
「毎日8時間以上寝る」と回答した割合 (%)	↑ 4.1	↑ 5.3	↑ 2.1	↑ 3.4
「健康には睡眠が大切だ」と回答した割合 (%)	↑ 1.7	↑ 0.9	↓ 1.3	↓ 0.6

イ 体育・保健体育の授業について

質問項目	小学校 男子	小学校 女子	中学校 男子	中学校 女子
「体育（保健体育）の授業が楽しい」と回答した割合 (%)	↑ 1.2	↑ 4.1	↑ 12.5	↑ 9.4
できなかったことができるようになったきっかけ、理由				
「先生や友達のまねをしてみた」と回答した割合 (%)	↑ 4.5	↑ 3.4	↓ 1.3	↓ 1.0
「授業中先生に個別にコツやポイントを教えてもらった」と回答した割合 (%)	↑ 4.7	↑ 1.0	↑ 2.0	↑ 1.0
「授業外で自分で練習した」と回答した割合 (%)	↑ 4.7	↑ 4.9	↑ 5.0	↑ 4.1

2 体力向上の取組について

【今後の対策】

- ・ 体育および保健体育の授業が「楽しい」と感じる子や、「運動が好き」と言える子を増やすことが、結果として、運動の日常化や体力の向上を図ることにつながると考えられる。したがって、各学校においては、運動の楽しさを実感させる授業の充実や、体育的行事の工夫を図る必要がある。
- ・ 朝食摂取等の生活習慣や運動習慣が、体力の向上の取組の土台となると考えられることから、今後もより一層、学校・家庭・地域・行政等が一体となって、生活習慣の改善や運動習慣の定着を図る取組を推進していく必要がある。（各学校一実践の取組の継続、市教委作成の家庭啓発用クリアファイルの配布を通じた取組等）
- ・ コミュニティ・スクールの導入・推進により、学校・家庭・地域が「子どもがどう育ってほしいか」というビジョンを共有し、その実現に向けたアイデアを出し合い、整理し、役割分担をする過程において、子どもたちの体力向上について、協働を図りながら活動を推進することが効果的である。

コミュニティ・スクールの導入・推進

- コミュニティ・スクールでは、保護者・地域住民等も教育の当事者となることで、責任感を持ち、積極的に子供への教育に携わることができるようになります。
- コミュニティ・スクールでは、保護者・地域住民等が学校運営や教育活動へ参画することで、自己有用感や生きがいにつながり、子供たちの学びや体験が充実します。
- コミュニティ・スクールでは、保護者・地域住民等と学校が“顔が見える”関係となり、保護者や地域住民等と協力を得た学校運営が実現します。

～平成30年度「アプローチ」60号より一部抜粋～